

★ 必ず施工前にお読み下さい ★

フローリング施工要領

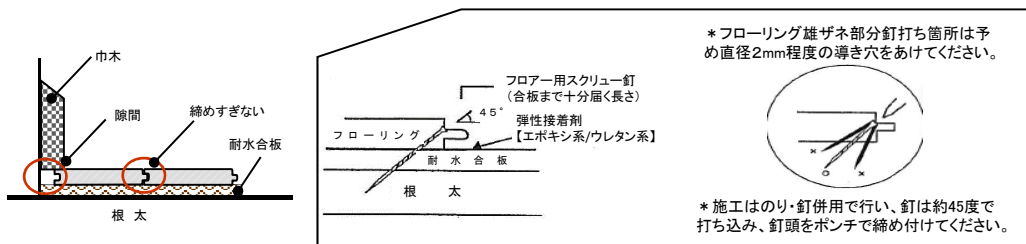
無垢のフローリングは周囲の湿気により伸縮する性質があります。施工には以下の点を留意して下さい。

○ 施工前のご注意

- ◆ 無垢材は生きて呼吸をしています。施工の一週間前には開梱し、現場の環境に馴染ませてください。ただし長期保管する場合は梱包を開けたままにしないでください。湿気を吸収し施工後の不具合の原因となります。
- ◆ 保管の際、水漏れの可能性のある場所・湿気が多い場所・直射日光の当たる場所には置かないでください。また、立て掛けて保管することも厳禁です。
- ◆ 天然木無垢製品は節・色目・柄がそれぞれ異なります。施工前に必ず仮並べを行い、バランスを取ってください。
- ◆ 湿気の無い乾燥した場所、床下換気が十分な場所に施工してください。
- ◆ 下地合板が水分や湿気を含んでいないことを確認してください。水分や湿気を含んでいる場合、フローリング材の伸縮・反り・膨れ・カビなどの原因となります。

○ 木質下地への施工

- ① 下地
 - ・ 床下からの湿気を防ぐためにも根太の上に⑦12mm以上の一類耐水性合板を使用してください。根太と合板の間に防湿シートを敷くことをお勧めします。
 - ・ 合板下貼り後、合板面の水平を必ず確認してください。床鳴りや目違いの原因となります。
 - ・ フローリング材と合板の間に遮音マット・シートを敷くとフローリング材が動く原因となります。遮音マット・シートに直接施工しないで下さい。
- ② 仮並べ
施工1週間前には開梱し、現場環境に馴染ませ、節・色目・柄のバランスを調整しながら仮並べをしてください。
- ③ フローリング貼り
 - ・ 壁際に必ず5～8mmの隙間を設けてください。天然木は馴染むまで伸縮を繰り返します。気候条件・季節・部屋の湿気にも影響を受けますので、巾木で隠せる程度の隙間を空けておくと突き上げなどのトラブル回避となります。
 - ・ 接着剤と釘の併用で施工してください。
接着剤・・・エポキシ系又は1液型ウレタン樹脂系。(木工用ボンドは不可。床鳴りの原因になります)
釘・・・フロー用。耐水合板に十分届く長さ。
 - ・ 接着剤は部分的塗布を避け、節目ゴテ等で延ばし全体に塗布してください。
釘はサネの部分に150～300mm間隔で打ち、下地に固定してください。フローリングを傷つけないよう サネ側から45度の角度で頭が沈む程度まで打ち込んでください。
 - ・ 乾燥期は床材と床材の間隔は名刺2枚(0.3～0.5mm)位の余裕を持って施工してください。






- ※ 釘が耐水合板まで十分届いていない場合、フローリングが動く原因となります。
- ※ 伸縮に対処する為締めすぎにご注意ください。
エアガンを使用する場合はサネを傷つける恐れがある為圧力の調節にご注意ください。
- ※ 施工する季節及び全館空調の有無によっても調整が必要です。
乾燥期に施工する場合はやや余裕を持って貼ってください。

- ④ 養生
養生テープは強力なものを使用すると塗装面を剥がしてしまう場合がありますので、弱粘着性のタイプで、表面保護の為通気性のあるものをご使用ください。







★ 必ずご使用前にお読み下さい ★

フローリングお手入れの手引き

無垢のフローリングをいつまでも美しくお使いになる為に以下の点にご留意下さい。




	注意	注意が必要な内容であることを意味します。
	禁止	「してはいけない」禁止の行為を示します。
	強制	必ず実行していただく「強制」・「指示」の内容を意味します。

I. 使用上のご注意

-  無垢フローリングの表面は、紫外線に直接当たる箇所は色褪せの要因となります。カーテンを使用するなど、できるだけ直射日光は避けてください。
-  雨漏れ、水こぼしはシミの原因となりますので速やかにふき取ってください。観葉植物などには水受け皿などを使用してください。浴室周辺など水廻りの近くではマットなどを使用してください。
-  家具の脚や台輪はフローリング表面に傷がつく原因となる事があります。市販の保護シートをお使いになるなど床面を保護してください。重量物を置く場合には重量を分散させてください。
-  家具を移動させる場合などは引きずらないようご注意ください。
-  電気カーペット、温風ヒーター、ストーブなどの熱が直接当るような使い方は避けてください。表面割れ、隙間、反りを引き起こす原因となります。これらを使用される場合は、断熱性の高いマットを敷いてご使用下さい。
※断熱マットは家電小売店などでお問い合わせください。
-  無垢材は、温度や湿度などの条件によって膨張・収縮変化を起こすことがあります。湿度が30%以下になると乾燥による反りなどが発生することがあるため、室内の湿度を35～60%に保つことが大切です。



II. お手入れ上のご注意

- メンテナンスフリーのフローリング材です。
- 毎日のお手入れは、掃除機などで砂やほこりを取り除いた後、乾いた布で乾拭きを行ってください。
- ワックスの塗布は必要ありませんが、塗る場合においては、以下の点にご注意下さい。
 -  樹脂を主成分としたフローリング用水性樹脂ワックスをお選び下さい。
 -  ワックスは布等に少量を含ませ、フローリング1枚1枚に薄く延ばし、丁寧に塗布してください。目地からワックスがしみ込み木材が吸収すると突き上げなどの不具合の原因となります。
 -  ワックスを直接フローリングにまく、垂らす、モップなどで広範囲に塗り延ばす方法は厳禁です。
※木材が吸収し突き上げなどの原因となる事があります。

★ 必ずご使用前にお読み下さい ★

木質フローリングの特性

無垢のフローリングをいつまでも美しくお使いになる為に以下の点にご留意下さい。

□ 伸縮について

木はフローリングとなってからも生きて呼吸しています。このため、季節や自然環境、室内の温湿度コントロールなどによって多少の伸縮が生じます。梅雨から夏場の湿気が多い時期は、含水率(木材に含まれる水分の量)が上がり、フローリングは伸びます。逆に冬場は含水率が下がりフローリングは縮みます。

また、カップ反りについて1.5mmまでの範囲においては許容範囲となります。(施工前)
このようにフローリングは1年を通じて伸び縮みますので使用条件により隙間が開いたりする事があります。木材製品の特性としてご理解ください。

梅雨～夏場
(湿気の多い期)



伸び:吸湿

冬場
(乾燥時期)



縮み:放湿

□ 虫食いについて

フローリング表面に小さな穴があき、木の粉のような物が出てくる場合がありますが、これは木部についた虫害と考えられます。一般的にフローリングは製造工程で高温高圧処理されるため、虫や卵は死滅しますが、その後の流通段階や施工後に、外部から虫が飛来して産卵し、虫食いが発生する場合があります。

万一発生した場合は専用薬剤を散布・注入するなど早期対応が必要です。専用薬剤はホームセンターなどでもお求めいただけますが、まずは処理専門業者にご相談されることをおすすめいたします。

□ 床鳴りについて

音の程度にもよりますがフローリングの継ぎ目部分がすれて音が発生していることが考えられます。これは木質フローリングが天然素材で木の性質としての調湿機能が働き、伸び縮みが生じることによって発生するもので、特性上やむをえない現象です。製品の性能使用上特に問題はありません。

その他ワックスを多量に塗布したり、水気の多いお手入れをされた場合などでも起こりますので、正しいお手入れ方法をおすすめします。

□ 退色・変色等の時間経過による色変化について

天然木を使用したフローリングは製品は光により色が濃くなる「変色」や色があせる「退色」という性質があります。光が当たる箇所と光が当たらない箇所の色合いに差が生じることがあります。着色した製品よりもクリア仕上げの製品はその差が目立ちます。これは天然木ならではの美しさで、時を経て磨きがかかり、自然から生まれる本物の味わいとなります。

□ 表面塗装の仕上がりについて

ムクフローリングは木材の導管が大きい部分などの表面がへこんでいる場合があります。これは環孔材とよばれるオークなどの樹種に発生しやすく、天然木の特性上やむをえない現象です。へこんだ部分も塗装されていますので、製品の性能、使用上特に問題ははありません。